

第三十七日目

師 範：いよいよ江戸幕府が開かれる年です。

ついに家康は朝廷から征夷大將軍の地位を認められました。

そして將軍家康として江戸に幕府を開きました。



家康の頭の中には、自分が將軍になったことも重要だが、豊臣家のように跡継ぎがなくなったり、2代目への地位の引継ぎに失敗しないようにしたいと考えていました。

そこで、短い期間で將軍を息子の秀忠に譲り、全国の大名に徳川家が代々、將軍位を継いで行くのだということを認めさせようとしたのです。

反徳川のよりどころになる豊臣家がなくなってほしいとのぞんでいました。

大阪の陣で豊臣家をほろぼすと、すぐに武家諸法度をさだめて、全国の大名をひとつの法で統制しました。

ここに武家諸法度が1615年になった理由があったのです。

1603年 江戸幕府が成立する。

この年を覚えましょう。

ペン太：これは



「人群れ騒ぐ江戸の町」

ですね。

「ひと」は1、「む」は6、「れ」は0、「さ(わぐ)」は3、ですね。

師 範：うまくできました。

コン太：きまりですね。

